

動く世の中、視点を変えれば見えてくるものがある。ホンネで言いたいことがある。



瓦ばん！

平成21年4月1日発行 季刊
発行責任者: 根っから地元派 ばん よしはる
ban-4@ares.eonet.ne.jp

第7号

こんにちは、ばんよしはるです。

今回からは、テーマを絞って自分の思いを書きますのでよろしくお付き合いください。

「今回は教育について」です。

いつも思うのは、福沢諭吉の「学問のすすめ」。皆さん知っておられるように、この本の冒頭の「天はヒトの上に人をつくらず」です。

つまり、生まれながらに天はヒトの上に人をつくりませんが、その後の学問への努力によって、職業的にも差がつき、貴賤の差が生まれてしまう。だから、立志学問に励め。ということだと想います。

その時代からすれば、学問に志をたてて、身分の差なく、その努力しだいで立身出世できるというのは希望に満ちたことだったように感じます。しかし、現在においては、福沢諭吉が説いた、旧来秩序たる封建制を打ち破る教育の価値はすでに失われています。むしろ、経済格差を再生産するような教育のあり方と、ブランド化による学歴社会の属性化がはびこるようになってしまいました。

今、何のために学ぶのか？が改めて問われているような気がしてなりません。

これからは、やはり個性を育てる教育だと想っています。

本当に必要なのは、学力というよりは、「自分らしい生き方」を発見させることであり、それを見つけるためにこそ教育がある。そして、それを引き出していくのが教育の原点です。

「自分らしい生き方」が主であり、教育自体は従であること。自分らしく生きるためには、他者とのかわりが必要だし、その中で自分自身を見つめることになる。そして、その中で自分自身の特性を発見し、他者のために自分が何を出来るかを考えるようになるんだと思います。

人のために何かをするということが広い意味での仕事であり、そのための能力を磨くのが教育です。自分の幸せにつながるストーリー作りの為にあるのではないのでしょうか。

行き過ぎた偏差値教育の結果が、競争に勝てない人、ましてそれに参加できない人は、「負け組」という横暴な論理でさえ派生しかねません。

誰もが、一列にならんで、用意スタートでいっせいに東大めがけて、がんばって、トップ通過は、高級官僚。遅れるごとに他の大学と職業に移っていく。

そういうのはおかしいんです。

福沢諭吉がぶっこわした封建主義と、新たに登場した学歴主義をぶっこわして、自己実現の時代へと社会のあり方、教育のあり方が進歩していくことを願いますし、自分もそういう方向に舵を切らせる一役を買うつもりでいます。

私はこの考え方をバックボーンにして、町政に挑み判断いたします。

なにはともあれ、今春、卒業・入学される皆様のご多幸を願わずにはいません。

◆.....◆
この「瓦ばん！」では町議会議員の毎日の中で感じたこと、活動や思ったことを紹介していきますので、皆様からのご意見・ご感想がありましたら、お知らせ下さい。宜しくお願いいたします。